3

データセンター

トップライン2009/2012、ROXシリーズとランニングウオッチ用

SIGMA GERMANY

www.sigmasport.com

目次

1 まえがき 4

2 データセンター 5
2.1 SIGMAデバイスをデータセンターと使用 5
2.2 システム要求事項. 6
2.2.1 ウィンドウズコンピュータ 6
2.2.2 MACコンピュータ 6
2.3 ソフトウェアのインストール 6
2.3.1 Windowsコンピューターにインストール 6
2.3.2 MACコンピュータにインストール 6
2.3.3 データセンターのアップデート 7
2.4 ソフトウェアの有効化 7
2.4.1 自動アクティベーション 7
2.4.2 手動アクティベーション 7
2.5 ドッキングステーションに接続 8
2.5.1 バイクコンピュータを接続 8
2.5.2 ランニングコンピュータを接続 8
2.5.3 遡及的にドッキングステーションを使用 9
2.5.4 Docking station’s LED panel. 9
2.6 ケーブルを使用してデバイスをコンピュータに接続 10

3 クイックスタートガイド 11
3.1 5ステップでの評価. 11
3.2 インタフェースの説明 12
3.3 重要な用語、アイコンと機能 12
3.3.1 すべてのSIGMAデバイス用機能 12
3.3.2 すべてのシグマデバイスのファンクション 13
3.3.3 ログ機能付きのデバイスの機能 14
3.3.4 ルート用機能. 14

4 初めてのトレーニングの前に. 15
4.1 新規デバイスを作成 15
4.1.1 ドッキングステーションと共に 15
4.1.2 ドッキングステーション無しで 16
4.2 データセンターを使用してデバイス設定を構成 17

5 トレーニングの後で 18
5.1 データをドッキングステーションまたはケーブルでデータセンターに転送 18
5.2 ドッキングステーション無しでデータを転送 19

6 データを整理. 20
6.1 トレーニングセッションの選択 20
6.2 トレーニングデータの管理. 20
6.3 トレーニングセッションにノートを記入. 21
6.4 メモリーとログの違い 21
6.5 メモリー 22
6.5.1 メモリーを比較. 22
6.5.2 PDFまたは印刷用にメモリーを保存 22
6.5.3 メモリーをエクスポート 23
6.5.4 メモリーをインスポート 23
6.6 ログ（ログ機能付きのデバイスのみ） 24
6.6.1 ログインターフェース. 24

目次

6.6.2 カスタマイズされたログビューの作成 25
6.6.3 値の範囲を区切りトリミング 25
6.6.4 チャート用の値を選択 26
6.6.5 休憩を編集 26
6.6.6 ラップを編集 27
6.6.7 ラップを追加 27
6.6.8 ログを印刷 28
6.6.9 ログをエクスポート 29
6.6.10 ログをインスポート 29
6.6.11 ログを比較する 30
6.6.12 ゴーストレース (ROX 9.1) 30
6.6.13 ログからルートを作成（ROX 10） 31

7 ルートを管理 31
7.1 インターフェースをトラック 32
7.2 ポータルからルートを表示およびインポート 33
7.3 ルートを作成 33
7.4 ルートを編集 34
7.4.1 ルートの詳細を編集 34
7.4.2 情報を挿入 34
7.5 見所（POI） 35
7.5.1 POIの作成および削除 35
7.5.2 ルートにグローバルPOIを割り当て 35
7.6 ルートを印刷 36
7.7 ルートをエキスポート 36
7.8 ルートをインポート 37
7.9 ルートをSIGMAデバイスと同期（GPS付きのデバイスのみ） 37

8 統計 38
8.1 統計エリア 38
8.2 統計のためにメモリーやログをアクティブまたは非アクティブ化 39
8.3 合計値のアップデートと閲覧 39
8.4 カレンダービューでの統計 40

9 データをフィルター 41
9.1 新規のフィルターを保存 41
9.2 保存したフィルターを使用 41
9.3 フィルターの変更 42
9.4 フィルタの削除 42

10 メンテナンス 43
10.1 バッテリーの状態をチェック 43
10.2 ログメモリーを削除 43
10.3 デバイス設定を変更しデバイスに転送 44
10.4 デバイス設定をエクスポート 44
10.5 デバイス設定をインスポート 44
10.6 データベースの保存場所を変更 45
10.7 データベースの最適化 45
10.8 デバイスのアップデートを実施 45

11 FAQ - よくある質問 46

1 まえがき

SIGMA SPORT®デバイスを選択されデータセンター3.1を採用されたこと、おめでとうございます。データセンター3.1では、コンピュータでトレーニングセッションを評価し、トレーニングの成功を容易にモニターすることを可能にします。

迅速にデータセンターの3.1つの機能を把握するには、このソフトウェアのマニュアルを注意深くお読みください。SIGMA SPORT®では、データセンター3.1のご利用を楽しみ、トレーニングの成功をモニターしていただけることを願っています。

2 データセンター

データセンターソフトウェアは、コンピュータまたはMAC上でSIGMAデバイスのデータを評価することを可能にします。いくつかのタイプのデータがあります:

- メモリー
- ログ
- デバイス設定
- ルート

注:

お使いのデバイスがどのデータを提供しているかについては、お使いのデバイスの取扱説明書を参照してください。ソフトウェアで使用してこのデータを最適に使用するには、オプションで利用できるドッキングステーションを使用することをお勧めします。これでデバイスとデータセンターの間で直接にデータを交換することができます。

2.1 SIGMAデバイスをデータセンターと使用

データセンターは次のSIGMAデバイスと共に使用できます:

バイクコンピュータ:
- BC 509
- BC 512
- BC 8.12および8.12 ATS
- BC 1009およびBC 1009 STS
- BC 12.12およびBC 12.12 STS
- BC 14.12 ALTI
- BC 1609およびBC 1609 STS
- BC 16.12およびBC 16.12 STS/CAD
- BC 1909 HR
- BC 2209 TARGA/MHR
- ROX 5.0
- ROX 6.0
- ROX 8.0
- ROX 8.1
- ROX 9.0
- ROX 9.1
- ROX 10.0 GPS

ランニングウオッチ:
- RC 1209
- RC 14.11

ドッキングステーションまたはケーブルを介して、デバイスをコンピュータに接続すると、デバイスは自動的に認識され、データをソフトウェアにインポートすることが可能になります。

ドッキングステーションをお持ちでない場合は、手動でSIGMAデバイスを作成する必要があります。それで、データセンターは手動または自動的に使用されるかに係わらず、選択されたSIGMA製品に関連する機能を表示します。データセンターは常にデバイスに関連するデータのみを表示します。キーボードを使用してソフトウェアにデータ値を入力します。

製品に応じて、次のデータをデータセンターに入力することができます。

- デバイスの累積された合計 - 例えば、合計距離。
- デバイスに記録されたすべてのデータを含むメモリー - 例えば、トレーニング時間。
- ログ - 例えばルートの高度プロファイル

次のオプションが最新のプログラムバージョンで利用可能です:

- 合計値の閲覧と印刷。
- トレーニングセッションの閲覧、比較と印刷、およびノートの追加。
- 詳細な統計を閲覧。
- ルートを計画、印刷およびエキスポート。
- デバイス設定を簡便にデータセンターで変更し、これらをデバイスに転送。

2.2 システム要求事項
2.2.1 ウィンドウズコンピュータ

データセンターの最新バージョンを使用するには、次のソフトウェアとハードウェアが必要です。

最小

- 少なくとも2.33 GHz以上のx86互換プロセッサ、あるいはネットブック向けの少なくとも1.6 GHzのIntel® Atom™
- 512 MB RAM
- Microsoft® Windows® XP Home、Professionalまたは Service Pack 3付きTablet PC Edition、Windows Server® 2003、Windows Server 2008、Windows Vista® Home Premium、Business、Ultimate または Service Pack 2付きEnterprise（および64ビット）またはWindows 7またはWindows 8 Classic

推奨システム

- Intel® Pentium® IV プロセッサー
- 1 GB RAM

2013年7月時点

2.2.2 MACコンピュータ

データセンターの最新バージョンを使用するには、次のソフトウェアとハードウェアが必要です。

- 1.83 GHzのIntel Core™ Duoまたはより高速のプロセッサ
- 512 MB RAM (1 GB推奨)
- MacOs X バージョン10.6、10.7、または10.8

2013年7月時点

2.3 ソフトウェアのインストール
2.3.1 WINDOWSコンピューターにインストール

❶ インストールを開始する前に、実行中のアプリケーションをすべて閉じます。
❷ インストールファイルを開きます。
❸ 画面上のインストール手順に従ってください。
❹ アプリケーションのスタート。

2.3.2 MACコンピュータにインストール

❶ インストールを開始する前に、実行中のアプリケーションをすべて閉じます。
❷ インストールファイルを開始します。
❸ 画面上のインストール手順に従ってください。
❹ アプリケーションのスタート。

2.3.3 データセンターのアップデート

データセンターの新規バージョンは既存のデータセンターと共にインストールされます。データセンターの既存のバージョン内のデータは影響を受けません。

初めてデータセンターの新規バージョンを起動すると、データベースの更新が自動的に開始されることがあります。

❶ データセンターの新規バージョンを開始します。
❷ **アップデートの開始**を選択します。
❸ アップデートが完了するのを待ちます。
❹ **データセンターの開始**をクリックします。

重要:

お使いのコンピュータとデータの量によっては、データ転送には数分かかる場合があります。開始後にデータベースのアップデートをキャンセルしないでください。そうするとデータのすべてが新しいデータベースに転送されないことがあります。

バージョン 1 からのアップデート
データを自動的にデータセンター1から転送することはできません。しかし、インストールが完了すると、容易にデータセンターの新規バージョンにメモリやログをインポートすることができます。

2.4 ソフトウェアの有効化

有効化は、インストールごとに一度だけ必要となり、インターネット経由で自動的（推奨）に行うことができます。お使いのコンピュータがインターネットに接続されていない場合は、手動でソフトウェアを有効化します。有効化せずに、すべてのデータセンターの機能を使用することができますが、ソフトウェアを20回のみ起動することができます。その後は、有効化する必要があります。

アクティベーションは、現在のオペレーティングシステムで常に有効です。新しいオペレーティングシステムがインストールされた場合、再有効化が妨げられることはありません。

アクティベーションが可能なシステムの数については、ライセンス条項をご覧ください。

2.4.1 自動アクティベーション

ソフトウェアを有効化するには、オンラインショップから受け取ったライセンスキー、またはCDカバーに提供されるライセンスキーが必要になります。登録ユーザーとして、オンラインショップでライセンスキーを見ることができます。

❶ データセンターを開始します。**ソフトウェアアクティベーション**ウィンドウが表示されます。
❷ ライセンスキーを入力します。
❸ **自動**をクリックします。
❹ **次**をクリックします。キーが正常に検証されると、ソフトウェアが有効化されます。これで、データセンターを開始したり、アクティベーションを終了することができます。

注:

エラーメッセージが表示された場合は、入力したライセンスキーを確認してください。

助言:

オンラインショップに登録して、ショップでCDジャケットからのライセンスキーを入力した場合、無償アップデートを受け取ることになります。

2.4.2 手動アクティベーション

インターネットに接続せずにコンピュータ上でデータセンターをインストールした場合、手動でデータセンターを有効化することができます。ソフトウェアを有効化するには、オンラインショップから受け取ったライセンスキー、またはCDカバーに提供されるライセンスキーが必要になります。

前提条件: ロック解除コードを受け取ることができる唯一の場所であるSIGMAオンラインショップにアクセスする必要があります。

データセンターでアクティベーションコードを生成
❶ データセンターを開始します。ソフトウェアのアクティベーションウィンドウが表示されます。
❷ ライセンスキーを入力します。
❸ 手動をクリックします。アクティベーションコードを受け取ります。
❹ 印刷をクリックします。アクティベーションコードが記入されたPDFが表示され、印刷することができます。

SIGMAオンラインショップからロック解除コードを入手
❶ オンラインショップに接続するために、別のコンピュータまたはスマートフォンを使用します。
❷ ログインします。
❸ オンラインショップでアクティベーションコードを入力します。ロック解除コードを受け取ります。

データセンターでアクティベーションプロセスを完了
❶ データセンターアクティベーションウィンドウに、オンラインショップからのロック解除コードを入力します。
❷ 次をクリックします。アクティベーションが完了しました。これで、データセンターを起動することができます。

2.5 ドッキングステーションに接続

ドッキングステーションは、多くのSIGMA・SPORTのデバイスに利用可能です。デバイスによっては、ドッキングステーションは、製品に付属しているか、またはアクセサリとして購入することができます。ドッキングステーションでは、SIGMAデバイスの値をデータセンターに転送したりデバイスの設定をコピーしたりすることができます。USBインタフェース経由でコンピュータにドッキングステーションを接続することができます。

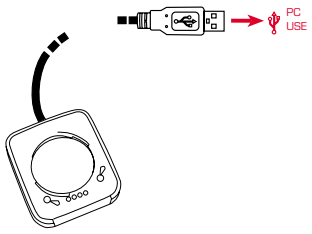
重要:

ソニーエリクソンPCスイートまたはノキアPCスイートを使用しますか? ドッキングステーションに接続する前に、プロセスPCSuite.exeまたはSEPCSuite.exeを終了および非有効化し、データセンターがインストールされていることを確認してください。

2.5.1 バイクコンピュータを接続

前提条件: データセンターが既にインストールされています。**ROXを持っている場合**: デバイスは**設定メニューになっていてはなりません。TOPLINE**デバイスを持っている場合: デバイスは**スリープモードまたは設定メニューになっていてはなりません。**

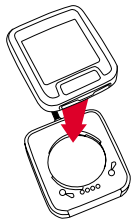
❶ コンピュータのUSBインタフェースにドッキングステーションを接続します。



注:

初めてコンピュータにドッキングステーションを接続している場合、それは新しいハードウェアとして認識され、ドライバがインストールされます。ドライバのインストールに同意する必要があります。

❷ SIGMAデバイスをドッキングステーションにねじ込みます。

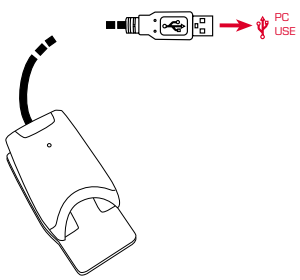


❸ データセンターを開始します。デバイスは自動的に新しいデバイスとして検出され、**新規デバイス**ウインドウが表示されます。
❹ 名前を入力します。
❺ 新規デバイスを保存します。

2.5.2 ランニングコンピュータを接続

前提条件: データセンターが既にインストールされています。
ランニングウオッチを持っている場合:
デバイスは**スリープモードになっていること**が必要です。

❶ コンピュータのUSBインタフェースにドッキングステーションを接続します。



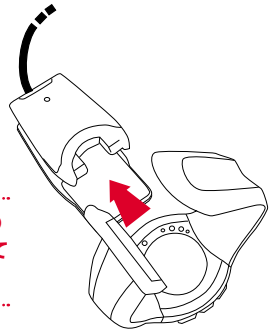
注:

初めてコンピュータにドッキングステーションを接続している場合、それは新しいハードウェアとして認識され、ドライバがインストールされます。ドライバのインストールに同意する必要があります。

❷ ドッキングステーションのブラケットを開きます。
❸ ランニングウォッチを挿入します。

助言:

ブラケットロックの上部にある2つのピンが左右の所定の位置に固定されていることを確認します。



❹ 接続が正しくなされた場合、LEDが緑に点灯します。
❺ データセンターを開始します。デバイスは自動的に新しいデバイスとして検出され、**新規デバイス**ウインドウが表示されます。
❻ 名前を入力します。
❼ 新規デバイスを保存します。

2.5.3 遡及的にドッキングステーションを使用

ドッキングステーションは多くのSIGMAデバイス用にスペシャリティストアまたはwww.sigma-data-center.comから入手できます。データセンターをインストールすると、ドッキングステーションのドライバが自動的にインストールされます。以前に、SIGMAデバイス用にトレーニングデータを入力するのに、キーボードを使用していた場合、これが失われることはありません。ドッキングステーションを使用してインポートしようとする新規データは、手動で作成されたデバイスに割り当てられます。

例:
データセンターで、SIGMAデバイス用のトレーニングデータを既に手動で入力済みの場合で、ドッキングステーションを初めて使おうとしています。

❶ データセンターを開始します。
❷ コンピュータへドッキングステーションを接続します（8ページの「ドッキングステーションを接続」を参照）。
❸ SIGMAデバイスをドッキングステーションに接続します。データセンターは自動的に新しいデバイスとしてSIGMAデバイスを認識し、すでに同じタイプのデバイスを作成したかどうかをチェックします。
❹ 既存のSIGMAデバイスを**名前を付けて保存**ドロップダウンメニューから選択します。
❺ **保存**をクリックします。データがダッシュボードに表示されます。

注:

データセンターが同じデバイスタイプを持つ1つのデバイスを含む場合、これが自動的に入力されます。

2.5.4 DOCKING STATION’S LED PANEL

ドッキングステーションのモードについて通知するLEDパネルは、その前面または上面で見つけることができます。

TOPLINE、ROX 5.0、およびROX 6.0ドッキングステーションのLEDパネル

ドッキングステーションモード	緑のLED	赤のLED
スリープモード	点滅	オフ
通信の待ち状態	オン	オフ
PCと通信	オン	オン

ROX 8.X、9.X、およびランニングウオッチ用ドッキングステーションのLEDパネル

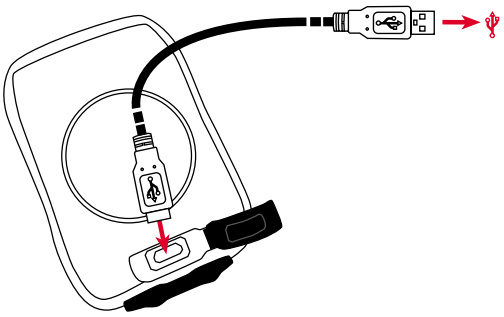
ドッキングステーションモード	緑のLED	赤のLED
スリープモード	オフ	オン
通信の待ち状態	オン	オフ
PCと通信	点滅	オフ

2.6 ケーブルを使用してデバイスをコンピュータに接続

ケーブルを使用して、いくつかのSIGMAデバイスをコンピュータに直接接続することができます。

前提条件: データセンターは既にインストールされています。あなたはケーブル接続を持つ**ROXを持っています。**

❶ コンピュータのUSBインタフェースにドッキングステーションを接続します。
❷ 付属のケーブルをSIGMAデバイスに接続します。



❸ コンピュータのUSBポートにケーブルを接続します。

注:

初めてコンピュータにSIGMAデバイスを接続している場合、それは新しいハードウェアとして認識され、ドライバがインストールされます。ドライバのインストールに同意する必要があります。

❹ データセンターを開始。デバイスは自動的に新しいデバイスとして検出され、**新規デバイス**ウインドウが表示されます。
❺ 名前を入力します。
❻ 新規デバイスを保存します。

3 クイックスタートガイド

クイックスタートガイドは、データセンターについての主要情報を、経験豊富なコンピュータユーザーに提供します。それは評価プロセスを5つのステップでガイドし、インターフェース構造を記述し、重要なアイコンと機能を説明しています。

3.1 5ステップでの評価

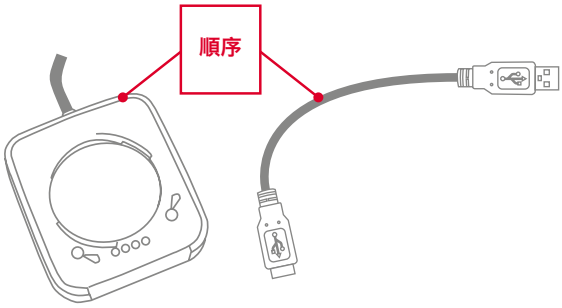
ドッキングステーション無しで

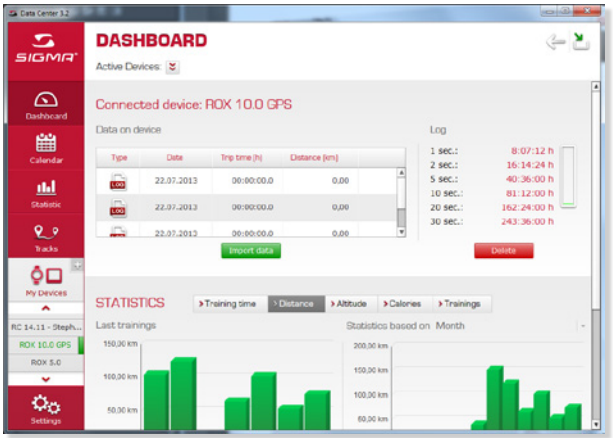
❶ ソフトウェアを開始します。
❷ 手動でSIGMAデバイスを作成します。
❸ 手動でデータ値を入力します。
❹ トレーニングセッションを選択します。
❺ トレーニングデータ等を比較、編集、または評価します。

コンピュータを接続せずにスクリーンを起動

ドッキングステーションで、あるいはケーブルを使用して

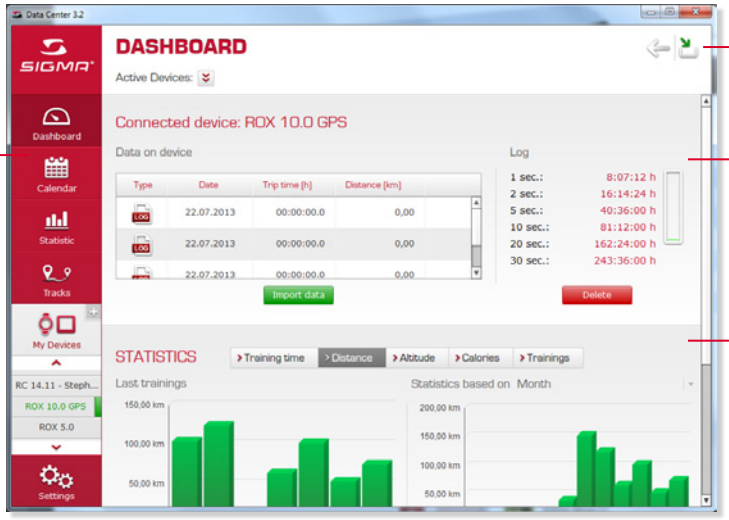
❶ ソフトウェアを開始します。
❷ SIGMAデバイスをコンピュータに接続します。
❸ データをインポートします。
❹ トレーニングセッションを選択します。
❺ トレーニングデータ等を比較、編集、または評価します。





SIGMAデバイスを接続してスクリーンを起動

3.2 インタフェースの説明



ダッシュボード

3.3 重要な用語、アイコンと機能
3.3.1 すべてのSIGMAデバイス用機能

メモリー
リストやウィンドウ内のメモリを示します

ログ
リストやウィンドウ内のログを示します

デバイス設定
デバイス設定のデータを示します

3.3.2 すべてのシグマデバイスのファンクション

戻る
前のスクリーンに戻ります。

ファイルからデータをインポート
トレーニングデータまたはデバイス設定、またはルートを持つファイルをインポートします。データはハードディスクドライブからロードされます。

選択されたデータをエクスポート
ファイルとしてデバイスの設定、トレーニングデータ、あるいはルートをエクスポートします。データはハードディスクドライブにロードされます。

印刷
トレーニングセッション、統計、あるいはルート計画を印刷します。

デバイスからアップロード
ドッキングステーションを使用してSIGMAデバイスからデータをデータセンターにインポートします。

デバイスへのエクスポート
ドッキングステーションを使用して、データセンターからデータをSIGMAデバイスに転送します。

メモリーを生成
手動でデバイス設定用のメモリ、ルート、または新しいセットを作成します。

コピーを作成
表示されたデバイス設定の編集可能なコピーを作成します。

フィルターの設定
トレーニングデータと統計領域の評価のために、新しいフィルタを作成したり、
既存のフィルタを編集または削除します。

すべてのタブを開いたり閉じたりします

比較
2つのメモリやログを比較します

スピードとペースを切り替えます
データはkm/hまたはmin/kmで表示されます。
Y軸の単位は、ログファイルの
ウィンドウで変わります。

3.3.3 ログ機能付きのデバイスの機能

特別な機能がログを評価するために利用可能です。

ドラッグ要素
ドラッグ要素はインターフェースを作成するために、上下のコンテンツ領域（ドロップゾーン）にドラッグしてドロップすることができます。

ターゲットと強度ゾーン
評価は、表形式プラス円グラフまたは棒グラフとして表示されます。

チャート
コンテンツ領域（ドロップゾーン）にチャートをドラッグ・アンド・ドロップします。

値
値の表をコンテンツ領域（ドロップゾーン）にドラッグ・アンド・ドロップします。

ルート
コンテンツ領域（ドロップゾーン）にルートをドラッグ・アンド・ドロップします。

チャート機能

ズームスライダ
スケール上の点をクリックするか、矢印をドラッグして、チャートにズームイン、ズームアウトします。細かくズームを調整するには、プラスまたはマイナスボタンをクリックします。

タイムライン
特定の点に緑色の矢印を移動し、その値を表示します。
値の範囲の制限を設定するには、赤い矢印を使用します。

ログ機能を持つメニュー
メニューをクリックして追加機能を表示します。

時間/距離のアイコン
X軸での単位時間とキロを切り替えます。

標高を調整
遡及的に開始時の高度を修正し、高度プロファイルを再計算します。

スピード/ペース
スピード/ペース用にkm/hとmin/kmの間で切り替えます。

以前または次のログエントリ
タイムライン上で緑色の矢印をログエントリ間で移動し、レコード内の個々のログエントリを具体的に選択します。

ログをトリミング
開始時および/または終了時で、ログをトリミングして、希望する長さに距離を短くします。

例「値の範囲を区切ったりトリミングする」（25ページ）は、効果的に機能を使用する方法を示します。

3.3.4 ルート用機能

汎用機能

ルートをインポート
ポータルからルートをインポートします。

ルートを同期（GPS付きSIGMAデバイス）
データセンターとSIGMA デバイス間でルートを同期します。

ルート作成機能

リニア
自動的に道路に沿うことなく、新規ルートポイントを作成します。

POI（見所）を追加
POIを作成し、そこが例えばレストランか駅かを指定します。POIは適切なアイコンを使用してマップ上にマークされます。

ルートを作成
自動的に道路に沿って、新規ルートポイントを作成します。

4 初めてのトレーニングの前に

初めてトレーニングを開始する前に、データセンターにデバイスを作成する必要があります。SIGMAデバイスがコンピュータに接続されている場合、デバイスの設定をチェックし修正して、SIGMAデバイスにこれらを再び転送することもできます。

4.1 新規デバイスを作成

SIGMAデバイスがコンピュータに接続されている場合、データーセンターは接続されたSIGMAデバイスを自動的に検出します。

コンピュータへの接続が無い場合、ご自身でSIGMAデバイスをデータセンターに作成する必要があります。

4.1.1 ドッキングステーションと共に

ドッキングステーションまたはケーブルがSIGMAデバイスをコンピュータに接続します。

- データセンターにメモリーまたはログをインポートします。
- デバイス設定をデータセンターで管理し、これらをSIGMAデバイスに転送します。

ドッキングステーションで新規デバイスを作成する方法:

❶ データセンターを開始します。
❷ SIGMAデバイスをコンピュータに接続します。
❸ デバイスの名前を入力します。
❹ **新規デバイスを保存**します。

助言:

すでにデータセンターをSIGMAデバイス用に使用していて、遡及的にドッキングステーションを購入しました。データセンターはSIGMAデバイスを新規デバイスとして認識します。新規デバイスを既に作成されたデバイスに割り当てます。それですべてのデータが保持されます。

4.1.2 ドッキングステーション無しで

ドッキングステーション無しでSIGMAデバイスを持っています。またデータセンターをこれと共に使用することができます。SIGMAデバイスを手動で作成します。

ドッキングステーション無しで新規デバイスを作成する方法:

❶ データセンターを開始します。
❷ **マイコンピュータ**の横にある**プラスサイン**をクリックします。
コンピュータの追加ウィンドウが表示されます。
❸ リストからデバイスを選択します。
❹ デバイス用の名前を入力します。
❺ **保存**をクリックします。新規のデバイスが作成されました。

助言:

データのやり取りをより簡単に早くしたいときは、ドッキングステーションをお求めください。ドッキングステーションはスペシャルティストアまたはwww.sigma-data-center.comで購入することができます。

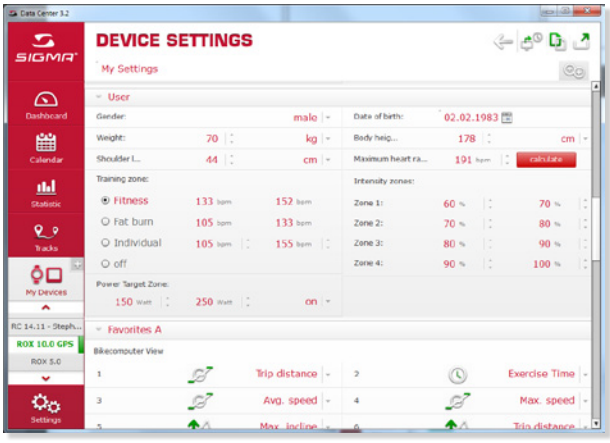
ドッキングステーション	参照番号
BC 509、BC 5.12、BC 8.12、BC 8.12 ATS、BC 1009、BC 1009 STS、BC 12.12、BC 12.12 STS、BC 14.12 ALTI、BC 1609、BC 1609 STS、BC 16.12、BC 16.12 STS/CAD、BC 1909 HR、BC 2209 TARGA/MHR トップライン2012、ROX 5.0、ROX 6.0	参照番号 00120
ROX 8.0、ROX 8.1、ROX 9.0、ROX 9.1	参照番号 00119
RC 14.11	参照番号 20232

4.2 データセンターを使用してデバイス設定を構成

SIGMAデバイスをコンピュータに接続した場合、データセンターでデバイス設定を変更し、これらをデバイスに転送することができます。また、デバイスの設定を保存し、ファイルとしてエキスポートすることができます。

例:
あなたはデータステーションを使用してSIGMAデバイスに異なる言語を設定したいと思います。

❶ データセンターを開始します。
❷ SIGMAデバイスをコンピュータに接続します。
❸ **マイコンピュータ**をクリックします。すべてのSIGMAデバイスが表示されます。
❹ 希望するSIGMAデバイスにマウスを移動し、**デバイス設定**を選択します。デバイス設定の一覧が表示されます。
❺ **デバイスからインポート**ボタンをクリックします。入力ウィンドウが表示されます。
❻ デバイス用の名前を入力します。
❼ **インポート**をクリックします。現在の設定がインポートされ、表示されます。
❽ **コンピュータ**タブをクリックします。設定オプションが開きます。
❾ 異なる言語を**言語**フィールドで選択します。
❿ 他のエリア内にその他の設定を入力します。
⓫ **デバイスにエクスポート**ボタンをクリックします。SIGMAデバイスの設定が変更されます。



デバイス設定

注:

一部のデバイスでは、コンピュータとの接続は、すべてのデータが正しく保存されるために、エクスポートに引き続いて切断する必要があります。データセンターの指示に従ってください。

5 トレーニングの後で

ドッキングステーションは、SIGMAデバイスからデータセンターに値をインポートするために使用できます。SIGMAデバイスで記録したすべての値はトレーニングデータエリアに表示されます。メモを追記することによって、このエリアでのトレーニングデータを強化し、2つのトレーニングセッションを比較することができます。エクスポート機能はデータの交換を可能にします。

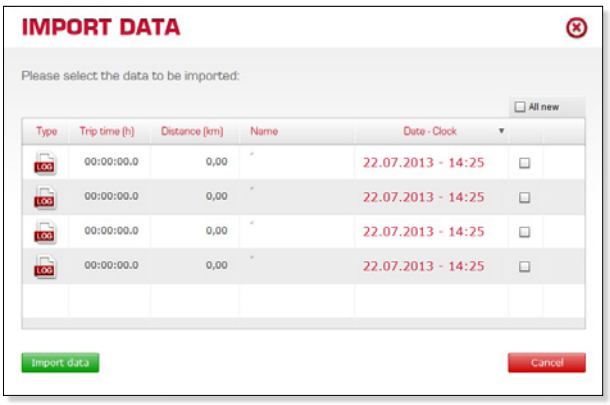
5.1 データをドッキングステーションまたはケーブルでデータセンターに転送

SIGMAデバイスをコンピュータに接続すると、容易にデバイスデータをデータセンターに転送することができます。

例:
あなたは、データセンターに2012年7月3日からのトレーニングセッションを転送したいと考えます。

ソフトウェアを起動し、コンピュータにSIGMAデバイスを接続しました。

❶ SIGMAデバイスが認識され、ダッシュボードに表示されます。 緑のチェックマークは既にインポートしたメモリーとログを示します。
❷ **データのインポート**をクリックします。**データのインポート**ウィンドウが開きます。SIGMAデバイスに、どのメモリーとログが保存されているかを見ることができます。 緑のチェックマークは既にインポートしたメモリーとログを示します。
❸ 7月3日から目的のトレーニングセッションを選択しました。
❹ トレーニングセッションに名前を付けます。
❺ **インポートデータ**をクリックします。トレーニングセッションがインポートされます。



助言 - トレーニングセッションが表示されません:

最新のトレーニングセッションがリストから欠落していますか? デバイス上でトレーニングセッションが終了していることを確認してください。完了したトレーニングセッションとログのみをインポートすることができます。

5.2 ドッキングステーション無しでデータを転送

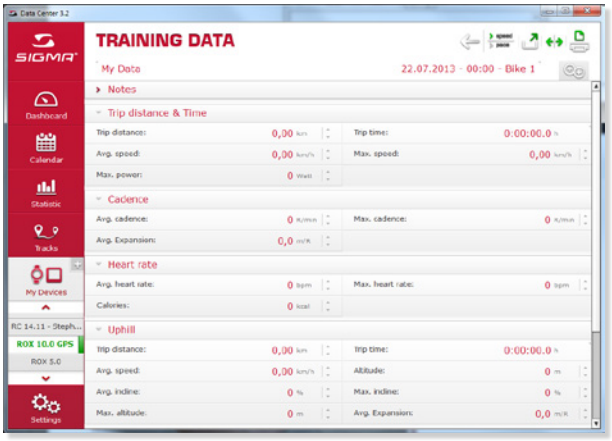
ドッキングステーションを持っていない場合でも、トレーニングセッションを評価するために、データセンターを使用することができます。このためには、トレーニングセッションを手動で作成し、キーボードを使用してデータを入力します。後でドッキングステーションを購入した場合でも、手動で入力したデータは継続して使用することができます。

助言:

デバイスを使用せずにトレーニングしてきた場合にも、手動でトレーニングデータを入力することができます。これでトレーニング記録を常時最新の状態に保持できます。

例:
あなたはデータセンターの最新のトレーニングセッションを解析したいと考えます。ソフトウェアは既に開始しています。SIGMAデバイスの準備ができています。

❶ **マイコンピュータ**をクリックします。
すべてのSIGMAデバイスが表示されます。
❷ 関連するSIGMAのデバイスにマウスを移動し、
トレーニングデータを選択します。トレーニングデータがリストビューに表示されます。
❸ **メモリーを生成**ボタンをクリックします。
メモリーを生成ウィンドウが表示されます。
❹ トレーニングデータを選択します。
❺ トレーニングセッションに名前を付けます。
❻ **メモリーを生成**ボタンをクリックします。
メモリーの詳細が表示されます。
❼ SIGMAデバイスから値をコピーします。



トレーニングデータ

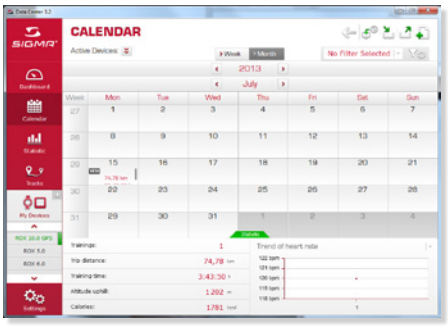
6 データを整理

6.1 トレーニングセッションの選択

さまざまな場所からメモリーやログを
選択することができます。

- **ダッシュボード**
  ダッシュボードは、常に最後の7つのトレーニングセッションを表示します。トレーニングセッションの上にマウスを移動し、データを記録するために、どのデバイスが使用されたかを見ます。トレーニングセッションをクリックして開きます。週間または月間ビューでバーを左クリックして、この期間内のすべてのトレーニングセッションを含むポップアップウィンドウを開きます。

- **カレンダー**
  カレンダーは週間または月間ビューを提供します。
  すべてのアクティブおよび非アクティブなトレーニングセッションがカレンダーに表示されます。トレーニングセッションにマウスを移動すると、ポップアップウィンドウが開きます。統計を編集したり、直接追加や削除したりするために、トレーニングセッションを選択できます。



- **統計**
  統計エリアでグラフをクリックし、
  週間ビューで日付を選択します。

- **マイコンピュータ**
  デバイスリストを見て、デバイス上にマウスを移動し、トレーニングデータを選択します。メモリーとログのリストビューが表示されます。ダブルクリックしてトレーニングセッションを開きます。

6.2 トレーニングデータの管理

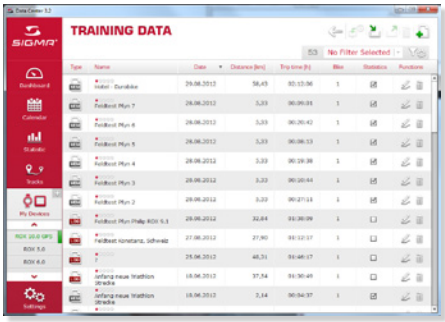
デバイス > トレーニングデータに移動し、すべてのインポートされたトレーニングセッションのリストを見ます。これはまた古いメモリーやログも含みます。

助言:

フィルター機能（16ページの「データをフィルターする」を参照）を使用して、メモリーやログを素早く見つけます。

次のオプションがリストビューで利用可能です:

- 例えば名前、日付等によってリストをソートします。
- 編集するためにトレーニングセッションを表示します。
- 統計のメモリーやログをアクティブまたは非アクティブにします。
- 個々のメモリーやログを削除します。
- メモリーやログをインポートまたはエクスポートします。



6.3 トレーニングセッションにノートを記入

トレーニングセッションのために、純粋なパフォーマンスデータに加えて、天候、プロファイル、または強度に関する情報を入力することができます。

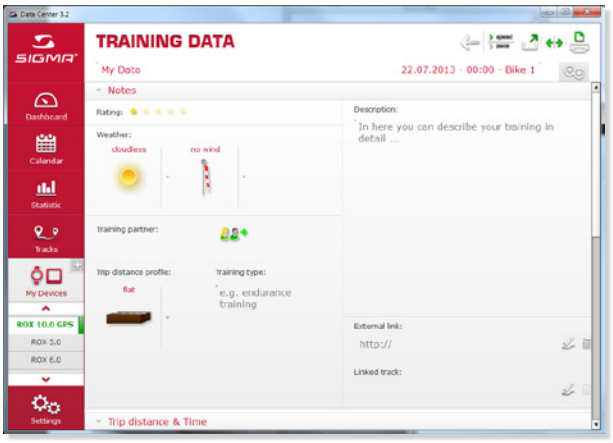
例:
あなたは最新のトレーニングセッションについてのメモを入力したいと考えます。データセンターはアクティブで、既にトレーニングデータをインポートしていて、ダッシュボードが開いています。

❶ 最新のトレーニングセッションをクリックします。
トレーニングデータが表示されます。
❷ **ノート**領域を開きます。
❸ ノートを入力します。ウィンドウを閉じたときに
メモは自動的に保存されます。

助言:

**古いトレーニングセッションについてのメモを入力したい場合は、
マイコンピュータ > デバイス > トレーニングデータと移動してトレーニングセッションを開きます。**

ノート領域の使用方法



ツアー日程 - 注意事項

- **説明を記入**
トレーニングセッション、あるいは何か特別に発生したことを説明するテキストを入力します。

- **トレーニングパートナー/グループを追加**
新しいトレーニングパートナーを追加するためには、トレーニングパートナーエリアにあるプラス記号をクリックします。新規のトレーニングパートナーが保存され、将来のノート用に選択することができます。また、トレーニンググループを追加して、選択することができます。

- **トレーニングパートナーを削除**
トレーニングセッションへの割り当てを削除（ごみ箱）するには、トレーニングパートナーにマウスを移動します。

- **トレーニングタイプを入力**
トレーニングタイプを入力します。

- **天候、トリップ距離プロファイル、およびレーティング**
利用可能なオプションを表示するには、該当する領域をクリックします。適切なレーティングを選択します。温度を記録できないデバイスにも、温度を入力することができます。

- **外部リンク**
例えば、オンラインの旅行写真へのリンク、もしくは降下のフィルムを追加します。

- **リンクされたルート**
トレーニングセッションに好適なルートをデータセンターに保存しました。マウスで入力項目の下部をクリックすることにより、ルートを選択し、トレーニングセッションにリンクすることができます。

6.4 メモリーとログの違い

メモリーはSIGMAデバイスでの記録の開始からトレーニングセッションを手動で停止するまでのすべての**累積値**を含んでいます。次は新規のメモリーが開始します。ほとんどのSIGMAデバイスは１つのメモリーを持っています。ROXシリーズのような幾つかのデバイスは複数のメモリーを持ち、またログも記録することができます。

ログでは、**個別の値**が一定の間隔で保存されます。次に値はグラフとして、データセンターの評価で表示されます。個々の値のメモリ容量は、ログ間隔（デバイスの取扱説明書を参照）に依存します。トレーニングセッションの全体、またはトレーニングセッションの個々のセクションをログすることができます。

注:

デバイス上で終了された後にのみ、SIGMAデバイスからソフトウェアにトレーニングやログをインポートすることができます。デバイス上でトレーニングセッションを終了する方法については、その取扱説明書を参照してください。

6.5 メモリー

6.5.1 メモリーを比較

メモリー比較で、2つのメモリーを比較することができます。比較するには、どのSIGMAデバイスでメモリーが記録されたかどうかは関係しません。これは、トレーニングパートナー、友人や知人からのメモリーでさえも、インポートおよび比較することができることを意味します。

例:
特定のルートでのセッションがシーズン始めからあり、そして長期にわたるトレーニング期間がありました。トレーニングがどれ位効果的であったかを見るために2つのメモリーを比較したいと考えます。

❶ **マイコンピュータ**をクリックします。すべてのSIGMAデバイスが表示されます。
❷ 関連するSIGMAのデバイスにマウスを移動し、**トレーニングデータ**を選択します。トレーニングデータがリストビューに表示されます。
❸ メモリーを開きます。
❹ **他のメモリーと比較**ボタンをクリックします。**メモリー比較**ウィンドウが開きます。

❺ ドロップダウンメニューから適切なSIGMAデバイスを選択します。関連するデバイス用のメモリが一覧表示されます。
❻ ダブルクリックしてメモリを選択します。
値を比較できるように、2つのメモリが並んで表示されます。

6.5.2 PDFまたは印刷用にメモリーを保存

あなたは、印刷可能なPDFとして、個々のメモリーをエクスポートすることができます。これを実行するために、メモリーのすべてのデータとノートは組み合わされます。

❶ **マイコンピュータ**をクリックします。
すべてのSIGMAデバイスが表示されます。
❷ 関連するSIGMAデバイスにマウスを移動し、**トレーニングデータ**を選択します。トレーニングデータがリストビューに表示されます。
❸ メモリーを選択します。
❹ **印刷可能なPDFを生成**ボタンをクリックします。
印刷プレビューがPDFで表示されます。

❺ PDFを印刷するかファイルとして保存します。

6.5.3 メモリーをエクスポート

データ交換の目的のために様々なファイル形式で個々のメモリーをエクスポートすることができます。

ファイル形式	エキスポート済み	理由
smf	データとノート	– データ交換のために、データセンターにインポート
csv	データとノート	– テーブル計算にインポート – 他のソフトウェアにインポート

例:
チームメートと一緒にトレーニングをしました。チームメイトは、データの比較を行いたいと考えます。したがって、トレーニングセッションを、SMFファイルとしてエクスポートします。

❶ **マイコンピュータをクリックします。**
すべてのSIGMAデバイスが表示されます。
❷ 関連するSIGMAデバイスにマウスを移動し、**トレーニングデータを選択します。**トレーニングデータが表示されます。
❸ メモリーを選択します。
❹ **選択したデータをエキスポート**機能をクリックします。
複数データをエキスポートウィンドウが表示されます。
❺「SMF」を**ファイル形式**として選択し、**エキスポート**をクリックします。
❻ 保存場所を選択します。
❼ 意味のある名前を**ファイル名**フィールドに入力します。
❽ **保存**をクリックします。すべてのデータとノートと共にトレーニングセッションがエクスポートされます。

助言 - マルチエキスポート:

複数のメモリを選択してエクスポートするには、CTRLを押し続けます。

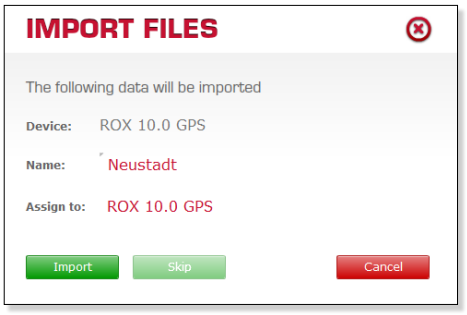
6.5.4 メモリーをインスポート

SMFファイルとしてエクスポートしたすべてのメモリーは、データセンターにインポートしなおすことができます。

注:

また以前のバージョンのデータセンターでエクスポートされたメモリーは、最新のバージョンにインポートすることができます。

❶ **ダッシュボード**に行き、**ファイルからデータをインポート**ボタンをクリックします。ファイル選択ウィンドウが表示されます。
❷ インポートするSMFファイルを選択します。
ファイルのインポートウィンドウが開きます。
❸ ファイルに名前を付けます。
❹ ファイルをデバイスに割り当てます。
❺ **インポート**をクリックします。ファイルがインポートされ、トレーニングセッションが選択したデバイスに割り当てられます。



助言 - マルチインポート:

複数のメモリを選択してインポートするには、CTRLを押し続けます。

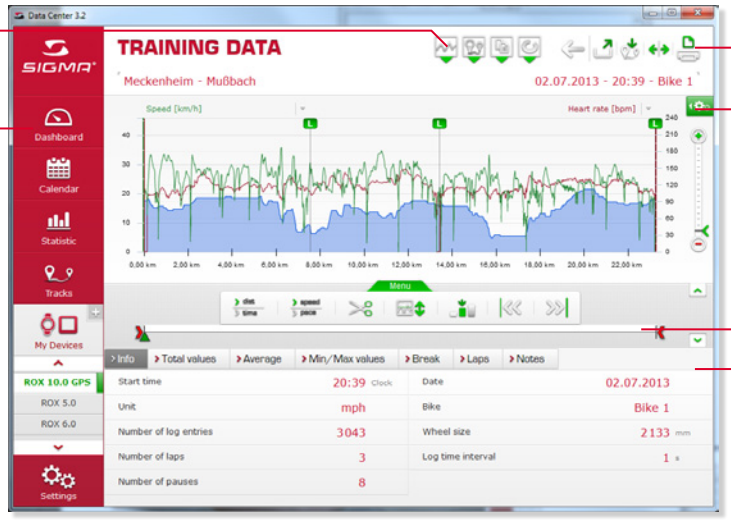
6.6 ログ（ログ機能付きのデバイスのみ）

幾つかのSIGMAデバイスはログもまた記録することができます。ログは非常に詳細に、あなたのパフォーマンスを表示および分析することができます。グラフと個々のパラメータの表示および非表示のオプションがこの作業を支援します。ログはエクスポートして、その他のアプリケーションで、比較したり処理したりすることが可能です。

注:

明確な例を使用するために、例では、ROXシリーズのデバイスまたはランニングウオッチを参照します。表示される値は、すべてのデバイスで録音することはできません。

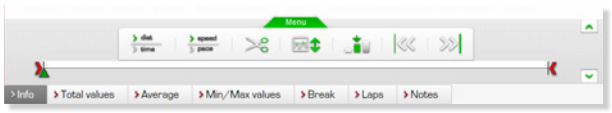
6.6.1 ログインターフェース



ログ

ダイアグラムのインターフェイスは対話型です。次のオプションがあります:

- **追加のログ機能を表示**
  メニューをクリックして、追加のログ機能を表示します（14ページの「ログ機能を持つデバイスの機能」を参照）



- **Y軸を変更**
  Y軸はチャートの左右に配置されています。ドロップダウンメニューは、各軸の隣にあり、ユニットを設定するために使用することができます。Y軸に速度/ペースを選択した場合は、ログ機能を使用してkm/hからmin/kmに単位を変更することができます。

- **X軸を変更**
  メニューをクリックすると、ログ機能の時間/距離を見ることができます。これを使用して、キロから時間、またはその逆に、X軸の単位を変更します。

- **チャートのラインをハイライト**
  線の上にマウスを移動して、その線を太字で表示します。これで、強調表示されたラインの単位をY軸に適用することができます。マウスを左クリックすると、データセンターは左側のY軸に単位を適用し、右クリックすると、右のY軸の単位が変更されます。

- **ライン上の特定のポイントの値を閲覧**
  緑色のスライド定規を使用して、タイムライン上の時間を選択します。これはグラフに垂直線として示されます。緑色のスライドルールの上にマウスを移動し、ツールチップとして、この時間の値を表示します。ライン上の任意の点の上にマウスを移動し、ツールチップとして個々の値を表示します。

- **チャートオプション**
  チャートオプションウィンドウを開いたり閉じたりすることができます。

6.6.2 カスタマイズされたログビューの作成

ログのデフォルトのビューでは、チャートはウィンドウの上半分に表示され、値の表は下半分に表示されます。これらの領域は、ドロップゾーンとして知られています。ドロップゾーンにさまざまなドラッグ要素をドラッグアンドドロップして、独自のログビューを作成することができます。

ドラッグアンドドロップ機能を使用して、チャートと表の位置を変更したり、2つのチャートまたは2つのテーブルを表示したりします。

ドラッグ要素を上部または下部のドロップゾーンにドラッグアンドドロップします。チャートがドロップゾーンに表示されます。

助言:

2つのログを比較して、チャートを互いの上下に置きます。グラフのチャートオプションは、ラインが比較できるようにチャートを薄暗くするために使用できます。

ドラッグ要素を上部または下部のドロップゾーンにドラッグアンドドロップします。値の表が表示されます。

ドラッグ要素を上部または下部のドロップゾーンにドラッグアンドドロップし、心拍数ゾーンのテーブルとグラフを表示します。どの心拍数ゾーンでどのくらいの期間のトレーニングを受けているかを参照することができ、また円グラフと棒グラフを選択することができます

ドラッグ要素を上部または下部のドロップゾーンにドラッグアンドドロップします。ルートがマップに表示されます。マウスをルート上のポイントに移動し、そのポイントのデータを表示します。選択されたポイントは他のドロップゾーンでもマークされます。

6.6.3 値の範囲を区切りトリミング

またログビューでログの一部を解析することができます。区切りはまた、ウィンドウの下部に表示される値も変更します。これらの値は、制限された領域のみに関連しています。また、ログをトリミングして、トレーニングセッションの重要でないセクションを削除することができます。区切られた値の領域内のデータのみがログに保存されます。

例:
ログをトリミングすることにより、トレーニングセッションの特定のセクションのみを分析したいと考えます。

❶ ログを開きます。
❷ タイムラインで、左の赤いスライダー矢印をクリックし、マウスボタンを押したままでセクションの始めまでドラッグします。
❸ タイムラインの右側のスライダー矢印をセクションの終わりまでドラッグします。チャートの一部分が、これで灰色になります。

グラフの下に表示されたタブ内のすべてのデータは、2つのスライダー矢印の間の、灰色でないエリアに関連しています。

❹ **メニュー**ボタンをクリックします。チャートの編集オプションが表示されます。
❺ **ログのトリム**を選択します。
情報ウィンドウが表示されます。
❻ **マークしたログエントリーをトリム**をクリックします。
グラフの灰色表示領域が削除されます。ログはこれで、トレーニングセッションの選択されたセクションからのデータのみを含みます。

助言:

ズームスライダーを使用してチャートのビューを拡大します。

6.6.4 チャート用の値を選択

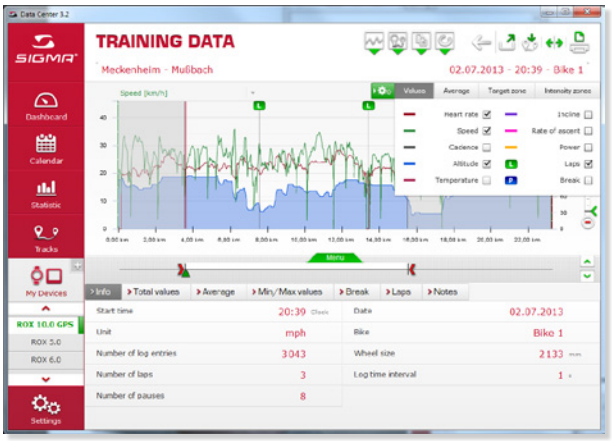
ログを選択し、特定の値のみをチャートで線グラフとして比較したいと思います。データセンターでは、値や休憩期間とラップを表示したり隠したりすることができ、また平均線や心拍ゾーンを表示することができます。

注:

チャートオプションの内容は、選択したデバイスに合わせて調整され、デバイスが実際に提供する情報のみを表示します。

例:
あなたは、あなたのレーシングバイクで丘のトレーニングセッションを完了しました。その後で、心拍数、スピード、高度と傾斜をチャートで比較したいと考えます。グラフはまた、平均の心拍数と心拍数ゾーンを表示することとします。

❶ **チャートオプション**で、チャート上に表示すべき**値**を有効にします。

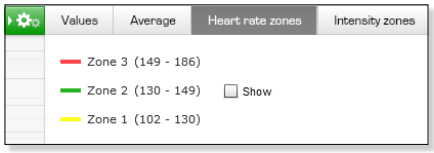


注:

2つの異なるデバイス間での比較を選択した場合、チャートオプションは両方のデバイスに用意されたすべての情報を表示します。

❷ **平均**タブに移動します。
❸ **心拍数**チェックボックスを有効にします。

❹ **心拍数ゾーン**タブに移動します。
❺ **表示**チェックボックスを有効にします。
心拍数ゾーンがグラフの背景として表示されます。



6.6.5 休憩を編集

例: ログがすでに表示されていて、休憩に関する詳細情報を入力したいと考えます。

❶ ブレークインジケータ上にマウスを移動し、
小さな青の情報ボックスを表示します。
❷ 編集マーカーアイコンをクリックして情報を入力します。
❸ 保存をクリックします。

助言:

すべての休憩期間も、ログビューの値のテーブルに表示することができます。この領域を使用して、複数の休憩時間を選択して削除することができます。

6.6.6 ラップを編集

❶ チャートオプションで**ラップ**チェックボックスを有効にします。
❷ ラップインジケータ上にマウスを移動し、小さな緑の情報ボックスを表示します。
❸ **編集マーカー**アイコンをクリックして情報を入力します。
❹ **保存**をクリックします。

助言:

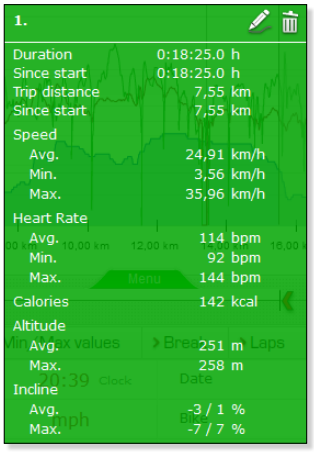
すべてのラップも、ログビューの値のテーブルに表示することができます。この領域を使用して、複数のラップを選択して削除することができます。

6.6.7 ラップを追加

ラップ追加機能で、遡及的にログをセクションに分割することができます。セクションはラップとして記述され、これらの値はテーブルに表示されます。チャートでは、ラップは緑の「L」で表示されます。チャートオプションのラップチェックボックスを有効にし、ラップを表示します。

助言:

チャートの緑色の「L」の上にマウスを移動し、ラップの値を表示します。



例:
トレーニングは、3つのフェーズで構成され、個々のフェーズの値を計算するために記録されたログを使用したいと考えます。

❶ **マイコンピュータ**をクリックします。すべてのSIGMAデバイスが表示されます。
❷ 関連するSIGMAデバイスにマウスを移動し、**トレーニングデータ**を選択します。トレーニングデータがリストビューに表示されます。
❸ ログを開きます。
❹ 値のテーブル内の**ラップ**タブを開きます。ラップがまだ入力されていません。
❺ 最初のフェーズが終了した時点まで、緑のスライド定規をドラッグします。
❻ メニューボタンをクリックします。追加のボタンが表示されます。
❼ ラップを**追加ボタン**をクリックします。新しいラップが**ラップ**タブに作成され、ログの開始からラップポイントまでの値が計算されます。緑の「L」がチャート上に表示されます。

助言:

チャート上の緑の「L」を見ることができませんか? チャートオプションでラップチェックボックスを有効にします。

❽ 緑のスライダー矢印を第2フェーズの終わりまでドラッグし、2周目を追加します。
❾ トレーニングセッションの最後まで緑のスライダー矢印をドラッグして、3周目を追加します。

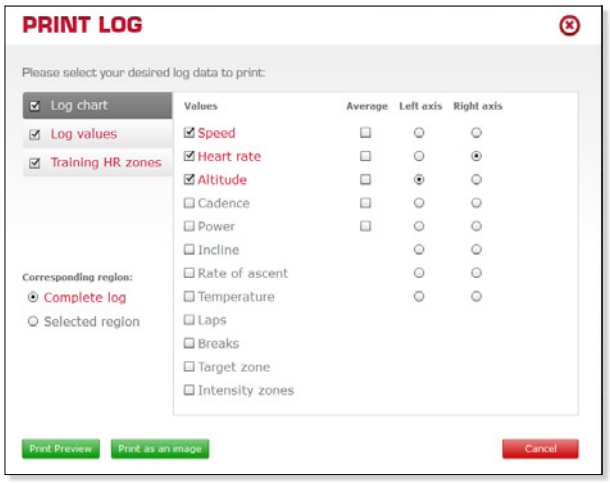
6.6.8 ログを印刷

完全なログまたはログの部分を印刷したり、PDFとして、これらを保存することができます。印刷オプションを使用して、印刷すべきデータを指定します。

例:
丘のトレーニングセッションを完了しました。7.5キロと12.5キロ間の心拍数、スピードおよび標高の値とグラフを印刷したいと考えます。

❶ **マイコンピュータ**をクリックします。
すべてのSIGMAデバイスが表示されます。
❷ 関連するSIGMAデバイスにマウスを移動し、
トレーニングデータを選択します。
トレーニングデータがリストビューに表示されます。
❸ リストからログを選択します。ログが表示されます。
❹ 値の範囲を7.5kmから12.5kmに制限します。

❺ **印刷**ボタンをクリックします。
❻ **ログチャート**タブで、左右のY軸の値と単位を選択します。



❼ **ログの値**タブを使用し、どのようにデータを準備するかを指定します。
❽ **選択した領域**ラジオボタンを有効にし、選択したエリアのみを考慮するようにします。
❾ **印刷プレビュー**をクリックします。PDFが生成され、表示されます。
❿ PDFを印刷します。

6.6.9 ログをエクスポート

データ交換の目的のために、様々なファイル形式で個々のメモリーをエクスポートすることができます。

ファイル形式	エキスポート済み	理由
smf	データとノート	– ログはメモリーとしてエクスポートされます
slf	個別の値、中間地点、休憩とノート	– データ交換のために、データセンターにインポート
csv	個別の値	– テーブル計算にインポート – 他のソフトウェアにインポート

例:
チームメートとトレーニングを一緒にしています。あなた達両方がトレーニングセッションのログを記録し、今すぐ値を比較したいと考えます。従って、ログをSMFファイルとしてエクスポートします。

❶ **マイコンピュータ**をクリックします。すべてのSIGMAデバイスが表示されます。
❷ 関連するSIGMAデバイスにマウスを移動し、**トレーニングデータ**を選択します。トレーニングデータがリストビューに表示されます。
❸ ログを選択します。
❹ **エクスポート**ボタンをクリックします。**複数データをエキスポート**ウィンドウが表示されます。
❺ **「SMF」を**ファイル形式として選択し、**エキスポート**をクリックします。
❻ 保存場所を選択します。
❼ 意味のある名前を**ファイル名**フィールドに入力します。
❽ **保存**をクリックします。すべてのデータと共にログがエクスポートされます。

助言 - マルチエキスポート:

CTRLキーまたはShiftキーを押しを押しながら、リストビューで複数のログを選択してエクスポートします。

6.6.10 ログをインスポート

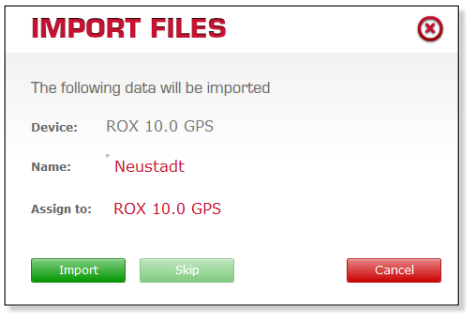
SMFファイルとしてエクスポートしたすべてのログは、データセンターにログとしてインポートしなおすことができます。

例:
チームメートと一緒にトレーニングをしました。あなた達両方がトレーニングセッションのログを記録し、今すぐ値を比較したいと考えます。チームメートがエクスポートしたログ「Training.slf」を渡してくれます。

❶ **ダッシュボード**に行き、**ファイルからデータをインポート**ボタンをクリックします。ファイル選択ウィンドウが表示されます。
❷ インポートのためにSLFファイルを選択します。**ファイルのインポート**ウィンドウが表示されます。
❸ ファイルに名前を付けます。
❹ ファイルをデバイスに割り当てます。
❺ **インポート**をクリックします。ファイルがインポートされ、ログが選択したデバイスに割り当てられます。ログは、値を比較するために利用可能になりました。

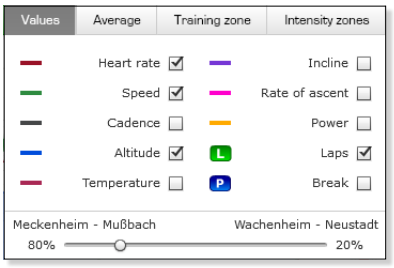
助言 - マルチインポート:

ファイルを選択するときは、CTRLを押し続け、複数のログを選択してインポートします。



6.6.11 ログを比較する

自分自身の2つのログ、あるいは自分のログとチームメートからインポートしたログのいずれかを比較することができます。



例:
あなたはチームメイトと丘のトレーニングセッションを完了し、両者とも記録した登りのログを持っています。心拍数を比較したいと考えます。既にログがデータセンターにインポートされています。チームメイトからログのエクスポートを受けとり、データセンターにインポートしました。

❶ 登りのログファイルを開きます。
❷ **比較**ボタンをクリックします。
❸ インポートしたログを割り当てたデバイスを選択します。
❹ トレーニングパートナーのログをダブルクリックして選択します。2つのログはこれで、互いの上下または隣同士に評価されます。

助言:

チャートオプションウィンドウのスライド定規で、チャートをより大きく強調したり、隠したりの設定をすることができます。

6.6.12 ゴーストレース (ROX 9.1)

ROX9.1のゴーストレース機能を使用するには、ROX9.1に記録されたログを再転送します。

助言:

トレーニングパートナーのログに対して乗りたい場合は、最初にパートナーのログをインポートしてから、ゴーストレースとしてROX9.1にこれを転送します。

❶ ドッキングステーションを使用して、
データセンターにROX9.1を接続します。
❷ データセンターで**マイコンピュータ**をクリックします。
すべてのSIGMAデバイスが表示されます。
❸ SIGMA ROX 9.1にマウスを移動し、トレーニングデータを選択します。トレーニングデータのリストが表示されました。
❹ ログを選択します。ログが表示されます。

注:

ゴーストレースのログは、5時間を超えることはできません。

❺ **ゴーストレースを転送**機能をクリックします。
❻ GHOST RACEに名前を付けます。これで、
ログは接続したROX9.1に格納されます。

6.6.13 ログからルートを作成（ROX 10）

ROX 10またはそれ以降で記録されたログを使用して、データセンターにルートを作成することができます。

例:
バイクレース中にログを作成したので、後日そのルートを再度走行したいと思います。

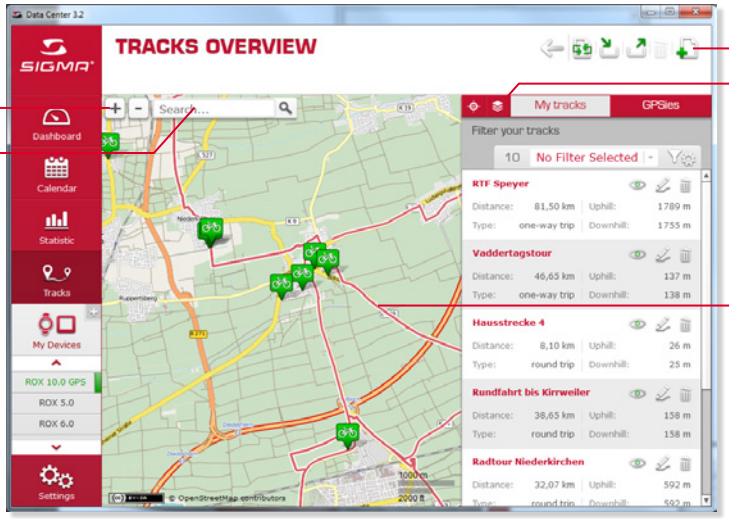
前提条件: ログはデータセンターに保存されます。

❶ **マイコンピュータ**をクリックします。すべてのSIGMAデバイスが表示されます。
❷ 関連するSIGMAデバイスにマウスを移動し、**トレーニングデータ**を選択します。トレーニングデータがリストビューに表示されます。
❸ リストからログを選択します。ログが表示されます。
❹ **ルートを生成**ボタンをクリックします。
❺ ルートに名前を付けます。
❻ ルートを保存します。ルートはデータセンターで利用できるようになります。

7 ルートを管理

すべてのデータセンターのユーザーは、ルートを作成、印刷、および共有することができます。GPSつきのSIGMAデバイスを持っている場合、追加のルートを記録し、さらなる機能にアクセスすることができます。

7.1 インターフェースをトラック



バックグラウンドマップがルート計画のために保存されます。また他のマップビューを選択し、等高線やバイク道などのさらなる情報を表示できます。検索フィールドを使用し、適切なマップセクションに迅速にナビゲートします。エレメントを使用し、マップをナビゲートします。

マップを移動
マップを使用してナビゲートします。またこれをマウスボタンを押したままで、マップセクションに移動することにより行うことができます。

ルートを中央に置く
マップの中央にルートを置きます。

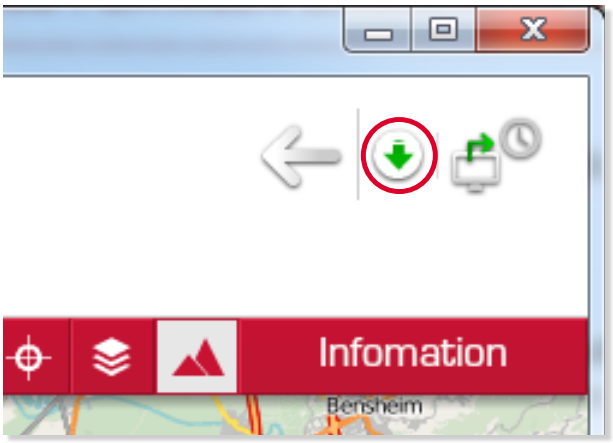
高度プロファイル
ルートの高度プロファイルをマップの下部に表示します。

7.2 ポータルからルートを表示およびインポート

GPSポータルからデータセンターにルートをインポートし保存できます。

例:
GPSポータルにバート・デュルケーム近辺でのバイクトリップのためにルートを作成し、それをデータセンターに保存したいと思います。

❶ ルートを表示します。
❷ 検索フィールドにバート・デュルケームを入力し、戻るを押します。バート・デュルケームがマップの中央に表示されます。
❸ ポータルボタンを選択します。選択ウィンドウが表示されます。
❹ 見つけたいルートのタイプを選択します。
❺ 検索を開始します。ポータルからのルートはマップにインポートされ、色つきのアイコンで表示されます。
❻ アイコンをクリックし、情報およびルート記述を表示します。
❼ ルートをインポートした場合、データセンターに保存され、編集することができます。



7.3 ルートを作成

データセンターを使用して、自分自身のルートを作成できます。
2つのルートタイプがあります:

- **リニア**
  自動的に道路に沿うことなく、新規ルートポイントを作成します。

- **ルート**
  自動的に道路に沿って、新規ルートポイントを作成します。

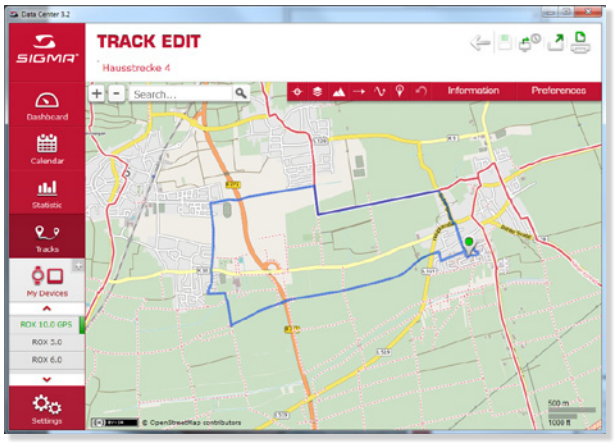
例:
バート・デュルケームからワイン街道沿いのノイシュタットまでのバイク道に沿ってバイクルートを計画します。データセンターは既に画面に表示されています。

❶ ルートを選択します。ルート計画マップが表示されます。
❷ 検索フィールドにバート・デュルケームを入力し、戻るを押します。市がマップの中央に表示されます。
注: いくつかの選択オプションがある場合はリストが表示されます。ダブルクリックして入力を選択します。
❸ 適切なレイヤーをルート計画向けに設定します。

助言:

またバイク道も表示することができます。

❹ **ルートを作成**ボタンを選択します。**ルートの作成**ウィンドウが表示されます。
❺ ルートの名前を入力します。
❻ ルートを保存します。ルート計画機能がマップ上に表示されます。
❼ **ルート**をクリックします。マウスカーソルはクロスヘアに変わります。
❽ ルートの開始点をクリックします。ポイントがルート用に表示され保存されます。
❾ マウスをクリックすることでルートをポイントごとに作成します。



7.4 ルートを編集

データセンターに保存されたすべてのルートは編集できます。GPSポータルからのルートは最初にインポートする必要があります。

❶ **ルート**リストビューを選択します。
❷ 編集するルートを選択します。
マップがルートと共に表示します。

7.4.1 ルートの詳細を編集

ルートがデータセンターに保存されている場合、それを編集することができます。

前提条件: ルートが編集のために表示されます。

マウスを使用してルートポイントを編集します。

- **ポイントを移動**
ポイントに行き、マウスの左ボタンを押したままで、ポイントを移動します。

- **ポイントを削除**
ポイントをダブルクリックして削除します。
ルートが再計算されます。

- **ルートに新規ポイントを追加**
ルート上の場所をダブルクリックし、新規ポイントを作成します。

- **2つのポイント間のルートを変更**
2つのポイント間をクリックしポップアップウィンドウを開きます。ここで、「ルーティング」と「リニア」のオプションを切り替える事ができます。

その他の編集オプションはオプション > 特性の下で見つけることができます。

- **始点または終点でポイントを追加**
新規ポイントは通常ルートの終点に追加されます。
この機能はルートの始点に新規ポイントを追加することを可能にします。

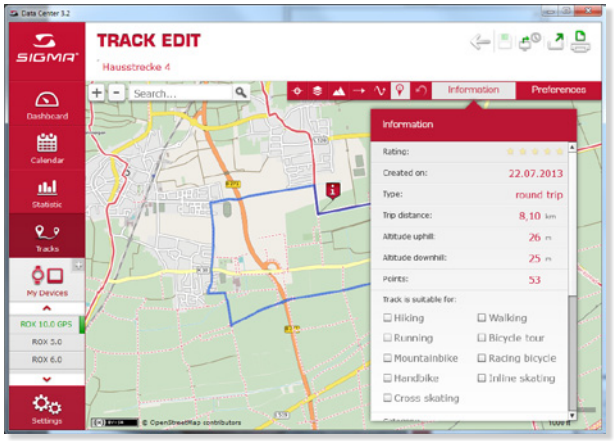
- **方向を逆転**
走行方向を変更する場合、ルートは再計算され、ルート記述が修正されます。

7.4.2 情報を挿入

自分自身のルートとインポートしたルートの両方に情報を追加することができます。チェックボックスを使用し、基本的な特性を指定し、ルートを例えばバイクあるいはランニングルートと記します。

前提条件: ルートが編集のために表示されます。

❶ オプションフィールドをクリックします。オプションが表示されます。
❷ 情報タブに切り替えます。
❸ テキストを記述フィールドに入力します。
❹ ルートに好適なアクティビティを有効にします。
選択によっては、異なるアイコンが後でマップ上に表示されます。



7.5 見所（POI）

見所（POI）には例えば、レストランやバイクワークショップなどを含めることができます。各種の異なるアイコンがPOIの性質を示します。POIウェブサービスを使用してPOIを示すことができます。ルート上に自分自身のPOIを作成することもできます。

7.5.1 POIの作成および削除

自分自身のPOIは常にルート上に保存されます。

例:
友人とバイクトリップを計画し、いくつかのレストランをPOIとして組み込みたいと思います。

前提条件: ルートは既に作成され、編集のために表示されています。

❶ **POI**をクリックします。
❷ POIを追加したい位置をクリックします。POIウィンドウが表示されます。
❸ POIに名前を付けます。
❹ タイプ**フード**を選択します。タイプによって、異なるアイコンがカードに追加されます。
❺ 記述的なテキストを入力します。
❻ POIを保存します。

助言 - POIの削除

POIをいつでも再度削除することができます。それを実行するには、POIに行き、次に削除ボタンをクリックします。

7.5.2 ルートにグローバルPOIを割り当て

POIウェブサービスを使用してPOIを示すことができます。POIが異なる色でハイライトされ、無効にされます。ルートを計画するとき、そういったPOIを有効化できます。それで、これらは表示されたルートに割り当てられます。

❶ 編集のためにルートを表示します。
❷ POIを表示します。
❸ グローバルPOIをクリックします。POIウィンドウが表示されます。
❹ **ルートに転送**ボタンを選択します。POIはマップ上にハイライトされ、ルートに割り当てられます。

助言 - ルートからPOIを削除

ルートからPOIをいつでも再度削除することができます。それを実行するには、POIをクリックし、続いて削除ボタンをクリックします。

7.6 ルートを印刷

ルートを印刷することができます。印刷オプションを使用して、印刷すべきデータを指定します。

例:
バイクトリップを計画し、そのためのルートをデータセンター内に作成しました。

前提条件: ルートが編集のために表示されます。

❶ **印刷**ボタンをクリックします。印刷オプションのウィンドウが 表示されます。
❷ 希望するオプションを選択します。
❸ **印刷プレビュー**をクリックします。PDFが生成され、表示されます。
❹ PDFを印刷します。

7.7 ルートをエキスポート

データ交換の目的で、ルートをGPX、KMZ、またはKMLフォーマットでエキスポートすることができます。

例:
長いトレーニングルートを計画したので、GPSルートとして利用できるようにしたいと思います。従って、ルートをGPX、KMZ、またはKMLフォーマットでエキスポートする必要があります。

❶ ルートをリストビューで表示します。
❷ ルートをクリックします。それがハイライトされます。
❸ **エクスポート**ボタンをクリックします。**複数データをエキスポート**ウィンドウが表示されます。
❹ **ファイルフォーマット**を選択します。
❺ **エキスポート**をクリックします。
❻ 保存場所を選択します。
❼ 意味のある名前を**ファイル名**フィールドに入力します。
❽ **保存**をクリックします。ルートがインポートされました。

助言 - マルチエキスポート

CTRLキーまたはShiftキーを押しながら、リストビューで複数のルートを選択してエクスポートします。

7.8 ルートをインポート

gpx、kmz、またはkmlファイルとして持っているルートはすべてデータセンターにインポートすることができます。

例:
チームメートからトレーニングルートをgpxファイルとして受け取りました。

❶ **ダッシュボード**に行き、**ファイルからデータをインポート**をクリックします。ファイル選択ウィンドウが表示されます。
❷ ダブルクリックしてファイルを選択します。
ファイルがインポートされ、ルートが割り当てられます。

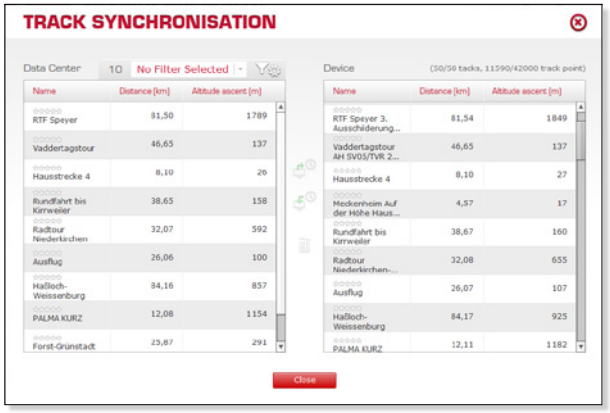
助言 - マルチエキスポート

ファイルを選択するときは、CTRLを押しながら、複数のルートを選択してインポートします。

7.9 ルートをSIGMAデバイスと同期（GPS付きのデバイスのみ）

GPS機能付きのSIGMAデバイスを持っている場合、データセンターとデバイス間でルートを共有できます。

❶ データセンターを開始します。
❷ SIGMAデバイスをコンピュータに接続します。
❸ **ルート**に移動します。
❸ **ルートを同期**をクリックします。ルート同期ウィンドウが表示されます。これを使用してSIGMAデバイスにルートを転送するか、データセンターにルートをインポートします。



ルートをデータセンターに転送
左側でルートを選択し、次に**デバイスからインポート**をクリックします。ルートはデータセンターにコピーされます。

SIGMAデバイスにルートを転送
右側でルートを選択し、次に**デバイスへエクスポート**を選択します。ルートはデバイスにコピーされます。

助言

フィルターを使用し、特定のルートを検索します。

SIGMAデバイスからルートを削除
左側でルートを選択し、次に**デバイスから削除**をクリックします。ルートはSIGMAデバイスから削除されます。

助言

データセンターにルートをインポートした場合、それを後日使用することもできます。

8 統計

データセンターには、いくつかの異なる統計が用意されています。

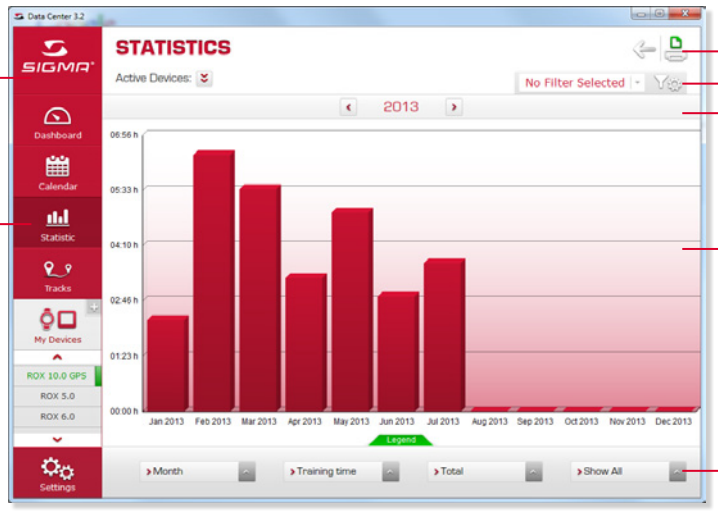
- **SIGMAデバイスの合計値**
  トレーニングデータに加えて、各デバイスは、追加のメモリ内に接続されたセンサのそれぞれの合計値を記録します。デバイスを使用するたびに、地元のパン屋行きやキャリブレーション乗車用を含む、新しい値を合計値に追加します。合計値を **マイコンピュータ > デバイス**の下で選択します。デバイスから最新の合計値をインポートします。

- **ダッシュボード上での統計概要**
  最後の7回のトレーニングセッションと毎週、毎月の値が、棒グラフとしてダッシュボードに表示されます。バーをクリックして、トレーニングセッションの詳細に直接ジャンプします。要約された統計は、アクティブなデバイスのアクティブなトレーニングセッションにのみ関連しています。

- **統計**
  統計領域では、インポートした何時間にもわたるトレーニングデータは、データセンターで照合され、統計的に評価されます。グラフ、値の比較や前年比較の何れかを選択できます。再びエントリをクリックすると、トレーニングセッションの詳細に直接アクセスできます。統計情報は、アクティブなデバイス用のアクティブなトレーニングセッションにのみ関連しています。

- **カレンダー内の週間および月間統計**
  カレンダービューはトレーニングデータを週ごとまたは月ごとに表示します。デバイスとトレーニングセッションを直接、有効化したり無効化することができます。表に加えて、トレーニング詳細もまたグラフ形式で表示されます。例えば、その週にトレーニングを行った強化ゾーンの概要を得ることができます。

8.1 統計エリア



統計 - グラフビュー

統計領域では、グラフ、値の比較や前年比較の何れかを選択できます。統計は、常に同様に処理されます。

以下のデータが、統計で考慮されます。
- すべてのアクティブなSIGMAデバイスからのデータ。
- トレーニングデータ画面で統計のために有効化したトレーニングセッションのデータ。

ビューには、次のオプションがあります:
- 特定の図形/機能でのフィルタします。
- 表示された統計情報を印刷します。
- 週、月、年など様々な時間軸の間で選択します。
- 距離や時間など様々な値を表示します。
- いくつかのSIGMAバイクコンピュータでは、2つのバイクの統計を個別または同時に、表示することができます。
- 異なるデバイスの統計情報を組み合わせます。

8.2 統計のためにメモリーやログをアクティブまたは非アクティブ化

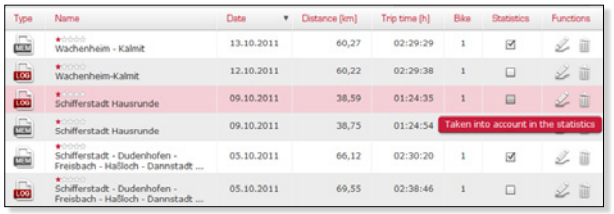
統計用に個別のメモリーまたはログを有効または無効にすることができます。**統計コラムで、マイコンピュータ > デバイス> トレーニングデータ >チェックボックス**

注:

デバイスがログとメモリーを持っている場合、統計のためにメモリーのみが自動的に有効にされます。

例:
統計で、あなただけのトレーニングセッションを見るために、すべてのレースを無効にしたいと考えます。

❶ **マイコンピュータ**をクリックします。すべてのSIGMAデバイスが表示されます。
❷ 関連するSIGMAデバイスにマウスを移動し、**トレーニングデータ**を選択します。トレーニングデータがリストビューに表示されます。統計に組み込まれているすべてのメモリには、**統計**コラムにチェックマークが付いています
❸ レースの横のチェックマークをクリックします。チェックマークが消え、そのメモリは統計に組み込まれません。



8.3 合計値のアップデートと閲覧

合計値はSIGMAデバイス用の累積的なデータです。データセンターにSIGMAデバイスから合計値をインポートすることができます。

注:

この機能はドッキングステーションまたは接続ケーブルを持つデバイスでのみ利用可能です。

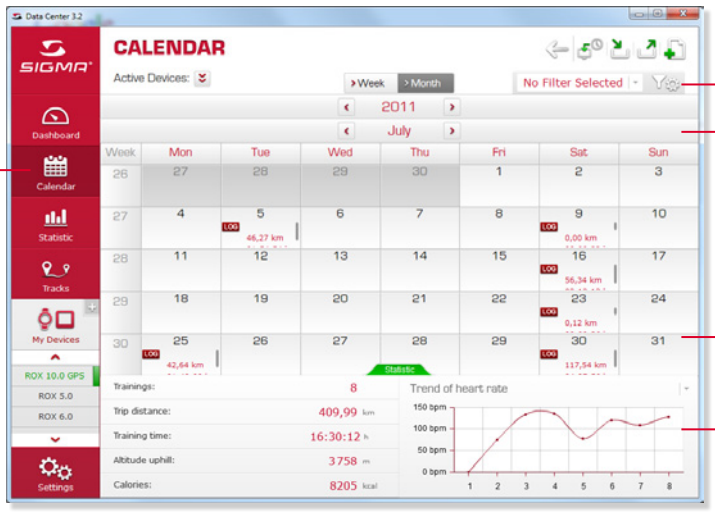
SIGMAデバイスをPCに接続すると、デバイスの合計値をアップデートすることができます。合計値は実際にデバイスに保存された値のみです。データセンターでの手動入力は、それらの値がデバイスに転送された場合にのみ考慮されます。

❶ データセンターを開始します。
❷ デバイスをコンピュータに接続します。
❸ **マイコンピュータ**をクリックします。すべてのSIGMAデバイスが表示されます。
❹ 関連するSIGMAデバイスにマウスを移動し、**コンピュータ合計値**を選択します。SIGMAデバイスの合計値が表示されます。
❺ **デバイスからインポート**ボタンをクリックします。合計値がアップデートされます。

注:

データセンター内のデータ記録を評価する場合、統計領域を使用します。

8.4 カレンダービューでの統計



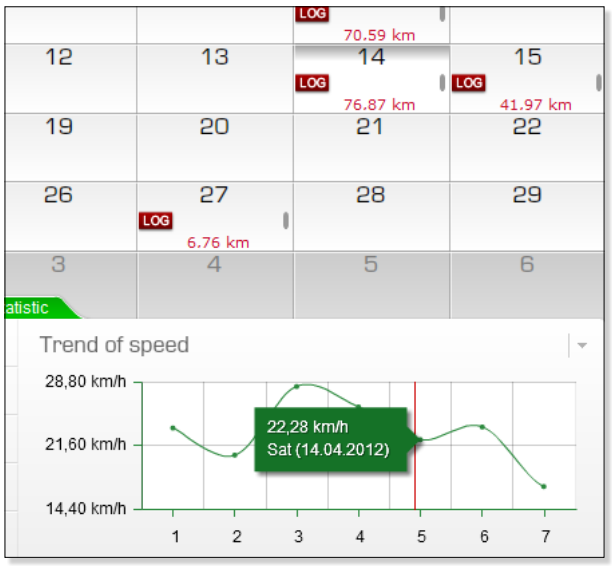
統計 - カレンダービュー

アクティブデバイスのすべてのトレーニングセッションはカレンダーに表示されます。無効にされたトレーニングセッションは淡色表示され、クリックすることで有効化できます。1日でいくつかのトレーニングセッションを実行した場合、日にちフィールドをスクロールすることができます。

表示された期間の統計はカレンダーの下に表示されます。統計には次が含まれます:
- アクティブデバイス用のデータ
- アクティブトレーニングセッション用のデータ
- 表示された期間からのデータ
- フィルターに合致するデータ

表示された期間のトレーニングの進捗はグラフ内に表示されます。各トレーニングセッションに対して、1点が曲線に追加されます。例えば平均速度の変化など、異なる平均値を見ることができます。

カレンダーとグラフはリンクされます。マウスをグラフ曲線上に移動して、カレンダー上の対応する日にちをハイライトします。



9 データをフィルター

時間と共に、より多くのメモリーとログがデータセンターに累積されます。統計領域とトレーニングデータのリストビューでは、フィルタを使用して、より速く特定のデータを検索したり、特定のデータを評価することができます。

9.1 新規のフィルターを保存

統計領域とトレーニングデータ画面でフィルタを作成することができます。保存せずにフィルタを作成した場合、それは新しいフィルタとして表示され、プログラムが閉じられるまで、それを使用することができます。必要なフィルタ設定をフィルタとして定期的に保存します。

例:
3つ星以上に格付けしたトレーニングセッションのみを表示するフィルターを作成したいと考えます。あなたはこのためにフィルタを保存したいと考えます。

前提条件:
フィルタが選択されていないこと。

❶ 統計領域またはトレーニングデータ画面を開きます。
❷ **フィルター設定**ボタンをクリックします。**フィルター**ウィンドウが表示されます。
❸ **詳細設定**タブに移動します。
❹ **格付け**チェックボックスを有効にします。
❺ 真ん中の星をクリックします。これで3つ星が点灯します。
❻ **保存**ボタンをクリックします。**フィルターを保存**ウィンドウが表示されます。
❼ 意味のある名前を入力します。
❽ **保存**をクリックします。**フィルター**あなたのフィルターを持つウィンドウが再び表示され、ドロップダウンメニューに表示されます。
❾ ウインドウを閉じます。

9.2 保存したフィルターを使用

例:
あなたは**3つ星評価フィルタ**を保存して、あなたが3つ以上の星を与えたトレーニングセッションのみのリストを表示したいと考えます。

❶ **マイコンピュータをクリックします。**すべてのSIGMAデバイスが表示されます。
❷ 関連するSIGMAデバイスにマウスを移動し、**トレーニングデータを選択します。**トレーニングデータがリストビューに表示されます。
❸ ドロップダウンメニューから**3つ星レーティング**フィルターを選択します。フィルタされたリストは、フィルタ基準を満たすデータレコードの数と一緒に表示されます。

9.3 フィルターの変更

統計領域とトレーニングデータ画面でフィルタを変更することができます。

例:
あなたは**3つ星評価**フィルタを作成し、本年のトレーニングのみを含めるように、これを拡張したいと考えます。

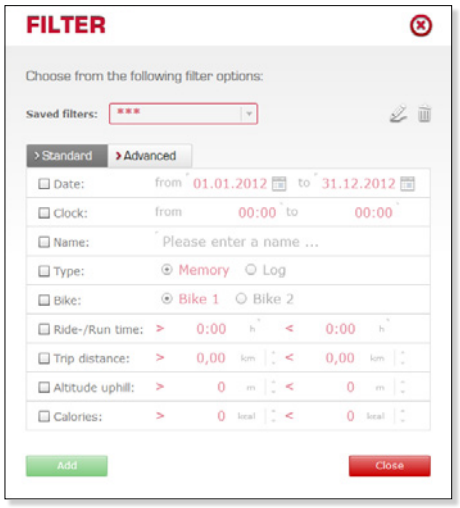
❶ トレーニングデータリストまたは統計領域を開きます。
❷ **フィルター設定**ボタンをクリックします。
❸ **保存したフィルター**ドロップダウンメニューから**3つ星レーティング**フィルターを選択します。
❹ **日付**チェックボックスを有効にします。
❺ 01.01.2012を**開始日**フィールドに入力します。
❻ 31.12.2012を**終了日**フィールドに入力します。
❼ **保存**をクリックします。新規の設定が作成されました。
❽ **閉じる**をクリックします。フィルタウィンドウが閉じ、フィルターが設定されます。

9.4 フィルタの削除

統計領域とトレーニングデータ画面で既存のフィルタを削除することができます。

例:
あなたは3つ星評価のフィルタを作成しましたが、もはや必要ないと考えます。

❶ トレーニングデータまたは統計領域のリストを表示します。
❷ **フィルター設定**ボタンをクリックします。
❸ **保存したフィルター**ドロップダウンメニューから**3つ星レーティング**フィルターを選択します。
❹ **削除**ボタンをクリックします。フィルタが削除されます。
❺ ウインドウを閉じます。



10 メンテナンス

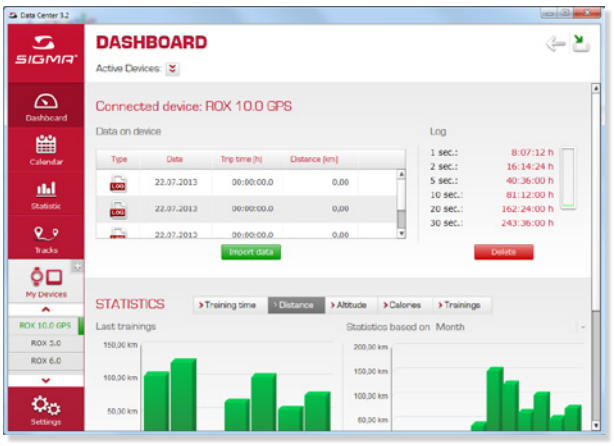
個別の部品のバッテリー状態を定期的に点検する必要があります。お使いのデバイスがこの機能をサポートしている場合は、ドッキングステーションを使用してデータセンターでこれを容易に行うことができます。ログが取れるデバイスを使用している場合、定期的にログメモリーを削除してください。

10.1 バッテリーの状態をチェック

デバイスをコンピュータに接続します。ダッシュボードで現在のバッテリーの状態の概要を見ることができます。
例では、最初の3つの電池はOKですが、バイクコンピュータのバッテリーを交換する必要があります。

注:

バッテリーを交換する方法については、お使いのデバイスの取扱説明書を参照してください。

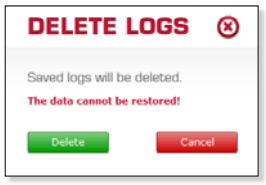


10.2 ログメモリーを削除

ログメモリの容量は記録間隔に依存します。いくつかの記録間隔（5、10、20、および30秒）を持つデバイスでは、この間隔を長くすると、記録期間が延長されます。メモリーが一杯の場合、それ以上のログは記録されません。

注意:

すべてのログをコンピュータに転送したことを確認してから、ログメモリーを削除します。トレーニングデータを表示し、



インポートデータボタンをクリックします。メモリーとログをチェックします。チェックマークが付けられていないファイルはまだインポートされていません。

例:
長いトレーニングセッションのためにログメモリーを削除したいと思います。ドッキングステーションをSIGMAデバイスとコンピュータに接続しました。データセンターが起動しました。

❶ デバイスをコンピュータに接続します。ログメモリの現在のステータスが概要に表示されます。様々なログ時間に対して使用可能なメモリの量を確認することができます。
❷ **削除**をクリックします。確認の質問の後、SIGMAデバイスのすべてのログは削除されます。

10.3 デバイス設定を変更しデバイスに転送

デバイス上で直接またはデータセンターを介してのいずれかで、デバイス設定を変更できます。直接SIGMAデバイスの設定を変更する方法については、その取扱説明書に記載されています。データセンターを使用して設定を変更する方法については、下の例を参照してください。

例:
デバイスに異なる言語を設定したいと考えます。
データセンターが起動しました。SIGMAデバイスはコンピュータに接続されています。

❶ **マイコンピュータ**をクリックします。すべてのSIGMAデバイスが表示されます。
❷ SIGMAのデバイスにマウスを移動し、**デバイス設定**を選択します。デバイス設定の一覧が表示されます。
❸ **デバイスからインポート**ボタンをクリックします。
❹ デバイス用の名前を入力します。
❺ **保存**をクリックします。
❻ デバイス設定が表示されます。
❼ **コンピュータ**タブに移動します。
❽ 別の言語を選択します。
❾ **デバイスに転送**ボタンをクリックし、デバイスに設定を保存します。

10.4 デバイス設定をエクスポート

SSFファイルとしてデータセンターに格納したデバイスの設定をエクスポートすることができます。

例:
データセンターにデバイス設定を保存しました。トレーニングパートナーはその設定が気に入っています。彼女は同じデバイスを持っているので、その設定をデバイスにコピーしたいと思います。デバイス設定をSSFファイルとしてエクスポートし、ファイルをトレーニングパートナーに渡します。

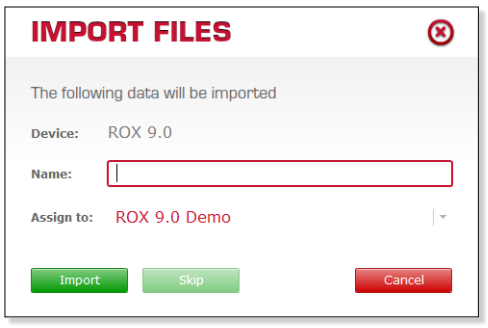
❶ **マイコンピュータ**をクリックします。すべてのSIGMAデバイスが表示されます。
❷ SIGMAのデバイスにマウスを移動し、**デバイス設定**を選択します。
❸ リストからデバイスを選択します。デバイス設定が表示されます。
❹ **選択したデータをエクスポート**ボタンをクリックします。
❺ 保存場所を選択します。
❻ 意味のある名前を**ファイル名**フィールドに入力します。
❼ **保存**をクリックします。デバイス設定はSSFファイルとして保存されます。

10.5 デバイス設定をインスポート

デバイス設定はSSFファイルとしてエクスポートされ、再インポートすることができます。

例:
あなたはトレーニングパートナーから、SSFファイルとして特別なデバイス設定を受け取り、それをデータセンターにインポートしたいと考えます。

❶ **ダッシュボード**に行き、**ファイルからデータをインポート**ボタンをクリックします。ファイル選択ウィンドウが表示されます。
❷ インポートするSSFファイルを選択します。**ファイルのインポート**ウィンドウが表示されます。
❸ ファイルに名前を付けます。
❹ ファイルをデバイスに割り当てます。
❺ **インポート**をクリックします。ファイルがインポートされ、デバイス設定が選択したデバイスに割り当てられます。



10.6 データベースの保存場所を変更

データセンターは、すべての値をデータベース内に保存します。このデータベースを格納する場所を、コンピュータ上で指定できます。

注:

データセンターで事前に選択された場所以外に保存場所を選択したい場合にのみ、この機能が必要となります。

データベースの保存
設定 > オプション > データベースと移動し、**移動先**をクリックします。

保存されたデータベースを開く
設定 > オプション > データベースと移動し、**開く**をクリックします。

10.7 データベースの最適化

大量のデータを削除した場合のみ、データセンターのデータベースを最適化する必要があります。最適化プロセスは、データベースを圧縮します。

設定 > オプション > データベースと移動し、**最適化を開始**をクリックします。

10.8 デバイスのアップデートを実施

SIGMAデバイス用のアップデートが利用可能な場合、ダッシュボードに表示されます。

重要

SIGMAデバイスのデータはアップデート中に消失する可能性があるので、前もってデータセンターにデータを転送する必要があります。

❶ すべてのログとメモリーをデータセンターに転送します。
❷ 現在のデバイス設定をデータセンターに転送しま。
SIGMAデバイス > デバイス設定 > デバイスからインポート
❸ **ダッシュボード**からアップデートを開始します。

重要

デバイスが故障することがあるので、アップデートを中断しないでください。

11 FAQ - よくある質問

コンピュータにデバイスを接続することができません（赤色のLEDがドッキングステーションに点灯）。
- SIGMAデバイスがドッキングステーションに正しく接続されていることをチェックします。

コンピュータにデバイスを接続することができません（緑色のLEDがドッキングステーションに点灯）。
- モバイルソフトウェア、**ソニーエリクソンPCスイート**または**ノキアPCスイート**がコンピュータにインストールされていることをチェックします。
  そうであれば、PCSuite.exeまたはSEPCSuite.exeのプロセスを停止し、無効にします。

データはPC上のどこに保存されますか?
- デフォルトのデータ格納場所は、**マイコンピュータ > SigmaDataCenter3**です。

データベースに異なる場所を選択することができますか?
- また、別の格納場所を選択することができます（「データベースの保存場所の変更」を参照してください）。

どうやってデータをバックアップすることができますか?
- データベースを別の場所にコピーして、バックアップコピーで、現在のデータベースを上書きします。

なぜメモリーのみ、あるいはログのみを読むことができるのですか?
- デバイスでトレーニングセッションが完了したかどうか、またはログを開始して完了したかどうかをチェックします。

どこでドッキングステーション用のドライバを見つけるのですか?
- ROXドッキングステーションおよびトップラインドッキングステーションの両方のドライバが、データセンターのソフトウェアと同時にインストールされます。これが行われた後、ドッキングステーションが自動的に検出され、インストールされます。したがって、ソフトウェアを最初にインストールする必要があります。